

2018年(平成30年)4月18日

輸送動向について(平成30年3月分)

1. 輸送概況

今月は、月初の爆弾低気圧接近等の影響により、月全体で高速貨148本、専貨2本が運休となった(前年は、高速貨43本が運休)。

コンテナは、鉄道へのシフトが進んでいる積合せ貨物が東海・九州地区間をはじめ関東・中国地区間などでも好調に推移した。化学薬品は既存顧客の需要増により大きく増送となった。また、自動車部品では東海発九州向けにおいて堅調な推移を見せ、前年を上回った。一方、紙・パルプは国内需要減少に伴う販売不振が続いており、東北地区発を中心に大幅な減送となった。また農産品・青果物は秋田・新潟発の民間流通米の荷動きが低調となったほか、食料工業品では清涼飲料水の生産拠点見直し等により利用が減少、さらに年度末に出荷旺盛となる引越荷物が人手不足に伴う平準化の影響で前年を下回った。この結果、コンテナ全体では前年比99.7%となった。

車扱は、石油が配送圏の見直しにより鉄道へのシフトが進む一方、3月に入り気温が上昇したことにより灯油の需要が落ち込んだことから、前年並みの実績となった。またセメントが需要の減少に伴って前年を下回ったことから、車扱全体では前年比99.5%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比99.7%となった。

2. 輸送実績

(単位:千トン、%)

種別 扱別	月 計		前年比	年 度 累 計		前年比
	本年実績	前年実績		本年実績	前年実績	
コンテナ	2,122	2,128	99.7%	22,437	21,994	102.0%
車 扱	833	837	99.5%	9,205	8,945	102.9%
合 計	2,955	2,965	99.7%	31,642	30,938	102.3%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)

扱 別	品 目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	173	175	-2	99.1%
	化学工業品	193	194	-1	99.8%
	化学薬品	141	136	5	104.1%
	食料工業品	332	334	-2	99.3%
	紙・パルプ	267	282	-15	94.7%
	他工業品	150	152	-2	98.2%
	積合せ貨物	268	256	12	104.8%
	自動車部品	90	86	4	104.5%
	家電・情報機器	40	41	-1	99.8%
	エコ関連物資	41	41	0	100.0%
	その他	426	431	-5	98.7%
	コンテナ計	2,122	2,128	-6	99.7%
車 扱	石 油	571	571	0	100.1%
	セメント・石灰石	132	135	-3	97.8%
	車 両	79	82	-3	97.3%
	そ の 他	50	50	0	101.3%
	車 扱 計	833	837	-4	99.5%
合 計		2,955	2,965	-10	99.7%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)